

都留市史

通史編

野球の創世期

新しい娯楽の一つとして活動写真が登場していたころ、谷村ではもう一つ、スポーツが新しく人々をとらえ始めていた。その一つはテニスや野球であった。

山梨日日新聞（大正十一年八月一日）は、谷村地方での庭球や野球などの球技熱を伝えている。丁度時期は夏休みに入っていたこともあって、谷村小学校の校庭には桂倶楽部、浪人倶楽部、実業学校生徒、そして帰省中の学生も加わり、庭球の練習のために早朝から集まっていた。また下町の東漸寺境内には町家の子弟が妙法倶楽部を結成して練習をしており、仲町の神宮境内にも神宮倶楽部が盛んに練習していた。また桂倶楽部都留中学野球部は、谷村小学校の校庭で夕刻から練習に入っているという。

こうして谷村地方に野球やテニスが流行するようになったのだが、この活動の中心になったのは、桂倶楽部とか、浪人倶楽部といった、同好者たちの自主的な団体としての倶楽部が活躍していた。それと、小学校の校庭が試合の場だけでなく、練習場としても活用されているのである。テニスでは浪人倶楽部主催で庭球大会が六チー

ム参加で小学校校庭で行われている。また桂倶楽部は、三吉や谷村小学校、そして県立工業学校の運動会にまで出向いて野球技の宣伝のためにシートノックを披露して宣伝している。

とくに野球の流行は著しく、少年野球は全国大会への出場まで果たすようになった。大正十二年六月に開催された桂倶楽部主催の南都留少年野球大会は、谷村小学校校庭で行われ、小学校第二選手チームが優勝している。大正十四年には県下大会で優勝するほどになったのである。

県下にその名を轟かせた郡内谷村小学校専科チームは、引き続き横須賀で開催された南関東の代表を決める二次予選で優勝し、大阪宝塚での全国少年野球大会に出場することになったのである。その活躍ぶりを伝える新聞記事によると、大日本少年野球協会主催の第七回大会は、奥州北と南の代表、東京の代表、関東北と南の代表、東海東と西の代表など三〇地方から選出されたチームが出場したとのことであった。